

官報

號外 昭和十一年五月十六日

○第六十九回 貴族院議事速記録第八號

昭和十一年五月十五日(金曜日)午前十時四十七分開議

議事日程 第八號

昭和十一年五月十五日
午前十時開議

第一 國務大臣ノ演說ニ關スル件(第七日)

第二 東北興業株式會社法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第三 東北振興電力株式會社法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第四 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第五 岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業ニ屬スル資産買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第六 江當軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第七 商工組合中央金庫法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

○議長(公爵近衛文麿君) 報告ヲ致サセマス

○議長(公爵近衛文麿君) 報告ヲ致サセマス

官報號外 昭和十一年五月十六日 貴族院議事速記録第八號 議長ノ報告 會議 日程變更ノ件 東北興業株式會社法案外一件 第一讀會

(角倉書記官朗讀)

昨十四日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

東北興業株式會社法案

東北振興電力株式會社法案

鐵道敷設法中改正法律案

岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業ニ屬スル資産買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

江當軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

商工組合中央金庫法案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願文書表(第二回報告)

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通政府委員仰付ケラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

第六十九回帝國議會内務省所管事務政府委員

社會局局長 赤松 小寅君

同 山崎 巖君

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス

○男爵井田磐楠君 昨日ノ津村君ノ發言ニ關シマシテ、緊急動議ヲ提出ヲ致シタイ、

發言ヲ御許シテ願ヒタイト思ヒマス

(「贊成」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 宜シウゴザイマス

(男爵井田磐楠君演壇ニ登ル)

○男爵井田磐楠君 昨日日本議場ニ於キマシテ津村君ガ爲サレマシタ言説ハ、貴族院ノ上カラ見マシテ頗ル遺憾ニ堪ヘヌ點ガアルノデゴザイマス、仍テ本員ハ議院法第九十八條ニ依リマシテ、同君ヲ懲罰ノ議ニ付セラレムコトヲ、動議トシテ提出ヲ致ス者デゴザイマス、何卒諸君ノ御贊成ヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 井田男爵ノ懲罰ノ動議ノ成立スル爲ニハ、二十名以上ノ贊成ヲ要シマス

○男爵阪谷芳郎君 贊成

(其ノ他「贊成」ト呼フ者多シ)

○議長(公爵近衛文麿君) 二十名以上ノ贊成ガゴザイマシタカラ、只今ノ懲罰動議ハ成立致シマシタ、津村重舍君ヲ懲罰委員ニ付スベシトスル井田男爵ノ動議ニ、贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

(起立者多數)

○議長(公爵近衛文麿君) 過半数ト認メマス、仍テ津村君ヲ懲罰委員ニ付シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 寺内陸軍大臣

(國務大臣伯爵寺内壽一君演壇ニ登ル)

○國務大臣(伯爵寺内壽一君) 昨日日本議場ニ於テ爲サレマシタ津村君ノ演說中、軍ニ關シマスル御意見ニ付キマシテ、全軍將校ノ名譽ノ爲ニ陸軍大臣ト致シマシテノ見解ヲ明カニ致シマシテ、確カト御反省ヲ促シタイト存ジマス、津村君ハ軍隊ニ於ケル極メテ特殊ナル一二ノ事例ヲ引用致サレマシテ、恰モ全軍ニ於テ將校ノ忠誠ニ對スル觀念ハ、下士官兵ニ劣ルガ如キ見解ヲ公ニセラレマシタコトハ、國軍將校ニ對スル最大ノ侮辱デアツテ、深ク遺憾ニ存ズルモノデアリマス、我ガ軍隊ニ於ケル將校以下ノ忠誠ノ念ハ、實ニ執鐵ノ如キモノデアリマス、特ニ將校ハ軍隊ノ楨幹デアリ、軍隊團結ノ中核デアリマシテ、常ニ率先垂範、下士官兵ニ對スル教育薰化ノ根源デゴザイマス、過去ニ於ケル諸戰役及事變ヲ通ジ、將校ノ死傷率ノ特ニ大ナルコトニ徴シマシテモ、將校ノ精神狀態ガ極メテ優良デアルコトヲ立證スルモノト確信致シマス、從テ津村君ノ昨日述ベラレマシタル御意見ハ、全軍將校ノ名譽ヲ汚シ、矜持ヲ毀クルモノニシテ、軍存立上ノ重大問題デアリマス、之ニ對シ津村君ガ速カニ反省セラレムコトヲ要望スル次第デゴザイマス

○議長(公爵近衛文麿君) 茲ニ日程ヲ變更シテ、日程第一ヲ最後ニ廻シタイト存ジマス、御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二、東北興業株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第三、東北振興電力株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二、東北興業株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第三、東北振興電力株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第四、東北興業株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第五、東北振興電力株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第六、東北興業株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第七、東北振興電力株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第八、東北興業株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第九、東北振興電力株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十、東北興業株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十一、東北振興電力株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十二、東北興業株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十三、東北振興電力株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十四、東北興業株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十五、東北振興電力株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス

コトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認

メマス、次田法制局長官

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノ爲

メ茲ニ載録ス以下之ニ做フ〕

東北興業株式會社法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月十四日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

東北興業株式會社法案

東北興業株式會社法

第一章 總則

第一條 東北興業株式會社ハ東北地方ノ

振興ヲ圖ル爲同地方ニ於ケル殖産興業

ヲ目的トスル株式會社トス

第二條 東北興業株式會社ノ資本ハ三千

萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増

加スルコトヲ得

第三條 東北興業株式會社ハ株金全額拂

込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ

得

第四條 東北興業株式會社ノ株式ハ記名

式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ

帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ

執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半

額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又

ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ

所有スルコトヲ得

第五條 東北興業株式會社ノ存立期間ハ

設立登記ノ日ヨリ五十年トス但シ政府

ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章 役員

第六條 東北興業株式會社ニ總裁副總裁

各一人、理事三人以上及監事二人以上

ヲ置ク

第七條 總裁ハ東北興業株式會社ヲ代表

シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務

ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ

行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ東北興業

株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ東北興業株式會社ノ業務ヲ監査

ス

第八條 總裁及副總裁ハ政府之ヲ命ジ其

ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍

ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ

命ジ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ

選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第九條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職務

又ハ商業ニ従事スルコトヲ得ズ但シ政

府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在

ラズ

第三章 營業

第十條 東北興業株式會社ハ左ノ事業ノ

經營又ハ之ニ對スル投資其ノ他ノ助成

ヲ爲スモノトス

一 肥料工業其ノ他電氣化學工業

二 水産及鑛産ノ資源開發事業

三 水面埋立事業

四 農村工業

五 其ノ他東北地方振興ニ關スル諸事

業

第四章 東北興業債券

第十一條 東北興業株式會社ハ拂込ミタ

ル株金額ノ五倍ヲ限リ東北興業債券ヲ

發行スルコトヲ得

東北興業債券ヲ發行スル場合ニ於テハ

商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコ

トヲ要セズ

第十二條 東北興業債券ヲ發行セントス

ル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 東北興業債券ハ無記名式トス

但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記

名式ト爲スコトヲ得

第十四條 東北興業債券ノ所有者ハ東北

興業株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ

先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利

ヲ有ス

第十五條 東北興業株式會社ハ社債借換

ノ爲一時第十一條ノ制限ニ依ラズ東北

興業債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合

ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總

額ニ相當スル舊東北興業債券ヲ償還ス

ベシ

第五章 準備金

第十六條 東北興業株式會社ハ每營業年

度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲

利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利

益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ

百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章 政府ノ監督及補助

第十七條 政府ハ東北興業株式會社ノ業

務ヲ監督ス

第十八條 東北興業株式會社借入金ヲ爲

サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベ

シ

第十九條 定款ノ變更、合併及解散ノ決

議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其

ノ效力ヲ生ゼズ

第二十條 東北興業株式會社ハ政府ノ認

可ヲ受クルニ非ザレバ利益金ノ處分ヲ

爲スコトヲ得ズ

第二十一條 東北興業株式會社事業計畫

ヲ設定シ又ハ變更セントスルトキハ政

府ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 政府ハ東北興業株式會社ノ

業務ニ關シ監督上又ハ東北地方振興上

必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ東北興業株式會社監

理官ヲ置キ東北興業株式會社ノ業務ヲ

監視セシム

第二十四條 東北興業株式會社監理官ハ

何時ニテモ東北興業株式會社ノ金庫、

帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢査スルコト

ヲ得

東北興業株式會社監理官ハ必要ト認ム

ルトキハ何時ニテモ東北興業株式會社

ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況

ヲ報告セシムルコトヲ得

東北興業株式會社監理官ハ株主總會其

ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ東北興業株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十六條 東北興業株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額ニ對シ第三營業年度迄ニ在リテハ年百分ノ四、第四營業年度以降ニ在リテハ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ第十五營業年度迄之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ每營業年度ニ於テハ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合、各營業年度ヲ通ジテハ五百五十萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ
第十五營業年度迄每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ年百分ノ六ヲ超エ百分ノ九迄ノ金額ニ付テハ其ノ二分ノ一、年百分ノ九ヲ超ユル金額ニ付テハ其ノ全額ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ
第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ向

殘餘アリタルトキハ之ヲ前項ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益金ト看做ス

第七章 罰則

第二十七條 東北興業株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ
一 本法ニ依リ認可ヲ受ケベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ
二 第十條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ
三 第十一條ノ規定ニ違反シ東北興業債券ヲ發行シタルトキ
四 第十五條ノ規定ニ違反シ東北興業債券ノ償還ヲ爲サザルトキ
五 第二十二條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第二十八條 東北興業株式會社ノ總裁、副總裁及理事第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス
第二十九條 非訟事件手續法第二百六條

乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第三十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 政府ハ設立委員ヲ命ジ東北興業株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十二條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スベシ

第三十三條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日竝ニ商法第二百六條第二項第一號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第三十四條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ

第三十五條 設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ

第三十六條 創立總會ニ於テハ第八條ノ規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ選任ヲ行フベシ

第三十七條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ東北興業株式會社總裁ニ引渡スベシ

第三十八條 登錄稅法第六條第一項第十號中「又ハ東洋拓殖債券」ヲ「東洋拓殖債券又ハ東北興業債券」ニ改ム

東北振興電力株式會社法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月十四日

衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長 公府近衛文麿殿

東北振興電力株式會社法案

第一條 東北振興電力株式會社ハ東北地方ノ振興ヲ圖ル爲同地方ニ於ケル電氣事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

東北振興電力株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ニ附帶スル業務ヲ營ミ又ハ東北地方ニ於ケル他ノ電氣事業ニ投資スルコトヲ得

第二條 東北振興電力株式會社ノ資本ハ三千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 東北振興電力株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第四條 東北振興電力株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ五十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第五條 東北振興電力株式會社ニ社長副

社長各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第六條 社長ハ東北振興電力株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及理事ハ社長ヲ補助シ東北振興電力株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ東北振興電力株式會社ノ業務ヲ監査ス

第七條 社長及副社長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第八條 社長、副社長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 政府ハ東北振興電力株式會社ノ業務ヲ監督ス

第十條 東北振興電力株式會社債ヲ募集セントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十一條 定款ノ變更、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十二條 東北振興電力株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ利益金ノ處

分ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 東北振興電力株式會社事業計畫ヲ設定シ又ハ變更セントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十四條 政府ハ東北振興電力株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ東北地方振興上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十五條 政府ハ東北振興電力株式會社監理官ヲ置キ東北振興電力株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第十六條 東北振興電力株式會社監理官ハ何時ニテモ東北振興電力株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

東北振興電力株式會社監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ東北振興電力株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

東北振興電力株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十七條 政府ハ東北振興電力株式會社ノ決議又ハ社長、副社長、理事若ハ監事ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ社長、副社長、理事若ハ監事ヲ解任スルコトヲ得

第十八條 東北振興電力株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額ニ對シ第三營業年度迄ニ在リテハ年百分ノ四、第四營業

年度以降ニ在リテハ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ第十營業年度迄之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ

但シ其ノ額ハ每營業年度ニ於テハ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合、各營業年度ヲ通ジテハ五百五十萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

第十營業年度迄每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ年百分ノ九迄ノ金額ニ付テハ其ノ二分ノ一、年百分ノ九ヲ超ユル金額ニ付テハ其ノ全額ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ

第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ尙殘餘アリタルトキハ之ヲ前項ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益金ト看做ス

第十九條 東北振興電力株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ社長又ハ社長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副社長ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副社長

又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副社長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 第十四條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第二十條 東北振興電力株式會社ノ社長、副社長及理事第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則 第二十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 政府ハ設立委員ヲ命ジ東北振興電力株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十四條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スベシ

第二十五條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第二十六條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ

第二十七條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ
遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第二十八條 創立總會ニ於テハ第七條ノ
規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ
選任ヲ行フベシ

第二十九條 創立總會終結シタルトキハ
設立委員ハ其ノ事務ヲ東北振興電力株
式會社社長ニ引渡スベシ

(政府委員次田大三郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(次田大三郎君) 只今議題トナ
リマシタ東北振興電力株式會社法案竝ニ東北振
興電力株式會社法案ニ付キマシテ、提案ノ
趣旨ヲ説明申上ゲマス、東北地方ハ色々ノ
原因ニ依リマシテ一般ニ産業ノ發達ガ遅レ
テ居リマス、加フルニ古來屢、災厄ノ襲フ
所トナリマシテ、住民生活ノ窮乏ハ誠ニ同
情ニ堪ヘザルモノガアルノデアリマス、從
テ同地方振興ノ必要ハ常ニ叫バレ來ツタノ
デアリマス、偶、昭和九年ノ冷害ニ因
ル凶作ノ結果ハ、特ニ朝野ノ耳目ヲ惹ク所
トナリマシテ、同年十二月内閣ニ東北振興
調査會ガ設置致サレマシタ、爾來同調査會

ハ東北地方振興ノ根本方策ニ付キマシテ、
鋭意調査研究ヲ重ネマシテ、曩ニ其ノ一端
トシテ政府ニ對シ特殊會社設置ニ關スル答
申ヲ致シタノデアリマス、想フニ東北地方
ノ深刻ナル窮乏ヲ徹底ニ打開スルガ爲ニ、
殖産興業ヲ目的トスル特殊ノ興業會社ヲ設
立致シマシテ、之ヲシテ政府ノ施設ト相俟
テ、各種産業ニ互ル統一の方針ノ下ニ資源
ノ開發ヲ圖ラシムルコトハ、最も緊要デア
ルト認ムルノデアリマス、而シテ各種産業

振興ノ基礎的要件ハ、低廉ニシテ豊富ナル
動力供給ヲ圖ルコトニアルノデアリマスル
ガ、東北地方ニ於ケル電氣事業ハ主ニ小規
模デアツテ建設費ガ高ク、其ノ施設ハ局部内
ニ止ル状態デアリマスルガ故ニ、茲ニ特殊
ノ電力會社ヲ設立致シ、之ヲシテ有利ナル
水力富源ヲ開發シ、低廉ニシテ且豊富ナル
電力ヲ供給セシムルコトガ、又最も緊要デ
アルト信ズル次第デアリマス、政府ニ於キ
マシテハ、如上ノ實情ニ鑑ミマシテ、兩特
殊會社法ノ制定ヲ決意シ、而シテ東北地方
ノ振興ニ資スベキ此ノ種ノ施設ハ一日モ速
カニ之ヲ實施スルコトノ必要ナルコトヲ痛
感致シマシテ、今回茲ニ兩法案ヲ提出スル
ニ至リマシタ次第デアリマス、而シテ既ニ
衆議院ニ於キマシテハ、兩法案トモ滿場異
議ナク可決セラレマシタ、何卒當院ニ於キ
マシテモ御審議ノ上、速カニ協賛ヲ與ヘラ
レムコトヲ希望致シマス

○議長(公野近衛文麿君) 質疑ノ通告ガゴ
ザイマス、淺田男爵

(男爵淺田良逸君演壇ニ登ル)

○男爵淺田良逸君 只今上程ニ相成リマシ
タル東北ノ二法案ニ付キマシテ質問ヲ致シ
マス、東北ノ實情ニ付キマシテハ只今御述
ニナリマシタ通りデゴザイマス、寧ろ御述
ニナリマシタノニ於キマシテハ、十分ニ其
ノ意義ヲ盡シテ居ラナイト考ヘルノデアリ
マス、凡ソ斯クノ如キ緊急ニシテ重大ナル
問題ヲ處理スルニ付キマシテハ、先ヅ以テ
其ノ根本ニ遡ツテ大方針ヲ確立シテ、而シテ
後ニ其ノ局部の問題ニ進ムベキガ順序ト考

ヘマスケレドモ、其ノ根本ヲ議スルニ當リ
マシテハ相當ニ考究ヲ要シ、日數モ掛ルコ
トデゴザイマセウカラ、部分的ニ抽速ヲ以
テオヤリニナルト云フコトニ付テハ、何等
異存ナイノデアリマス、寧ろ遅レタルヲ憾
ンデ居ルヤウナ次第デゴザイマス、衆議院
ト致シマシテハ、地方的色彩ノ濃厚デアリ
マス問題ニ付テハ、其ノ地方出身ノ者ガ頗
ル熱烈ニ研究論議ヲ致シ、唯促進ニ遲レ
ザラムコトヲ專念致シテ居ルノデゴザイマ
ス、勿論當貴族院ト致シマシテモ同様デゴ
ザイマス、東北ノ問題ニ付キマシテモ深甚
ナル同情ヲ寄セテ居ルノデアリマスルケ
レドモ、當議場ニ現レマスル所ノ論議ト致
シマシテハ、或ハ十分ニ盡スノ機會ヲ得ズ
シテ終ルコトモ少クナイノデゴザイマス、
私ハ今回ノ本問題ニ付キマシテハ、我が帝
國ノ重大ナル一部ヲ占メテ、而モ最も困窮
ヲ致シテ居ル彼ノ地方ニ對シ、當貴族院ト
シテハ深甚ノ考慮ヲ拂ヒ、萬幅ノ同情ヲ寄
セテ十分ニ之ヲ審議シ、其ノ足ラザル所ハ政
府ヲ鞭撻シテ、多々益、辨ズルヤウニシナケ
レバナラスト思ツテ居ル一人デアリマス、想
フニ東北ノ實情ハ、古キニ遡テ申上ゲルコ
トヲ止メマシテ、大正ノ二年ノ大凶作ニ當
リ、當時ノ政治家、實業家等ガ大層御熱心ニ
東北振興會ナルモノヲ組織致シ、爾來凶作ノ
アル度毎ニ色々ノ施設ガ行ハレテ居リマス
ケレドモ、殆ド全部ハ花火線香ノ如キモノ
ニナツテ居リマス、政府ノ方針モ立タズ、縣
廳ノ才役人モ頻繁ニ交替ヲ致シ、今日ニ至
ル迄多年打チヤラレタ情況ニアルト云フコ

トハ甚ダ殘念デゴザイマス、昭和六年ニ青
森縣ヲ中心ト致シ、三縣ニ於テ大凶作ガア
リマシタ際ニ、畏クモ二十數年振リニ於テ
侍從ヲ御差遣ニ相成リ、多大ノ御内帑金ヲ
賜リマシタノデアリマス、當時私ハ軍職ヲ
罷メタバカリノ時期デゴザイマシタガ、全
國ニ向ツテ聖恩ノ厚キヲ謝シ、又天下ニ同情
ヲ求メタノデゴザイマシタ、其ノ翌年ハ三
陸ノ大震災デゴザイマス、其ノ翌年ノ豐年
ニハ又恰モ局部的ニ大洪水ガアリマシテ、
悲慘見ルニ忍ビズ、農林大臣ガ現況ヲ視察
スルトコ云フトニナリマシタ、其ノ翌年ニ
於ケル昭和九年ノ大冷害ハ、其ノ地域廣ク、
其ノ慘狀最モ深刻デアリマシタガ故ニ、深
ク天下ノ同情ヲ集メマシテ、六縣知事ハ共
同戦線ト云ウテハ變デゴザイマスルケレド
モ、兎ニ角眞劍ニ身命ヲ賭ストノ慨ヲ以テ、
共同シテ政府ニ要求ヲ致シ、國モ亦進ンデ
此ノ調査ヲ致シタ譯デアリマス、此ノ結果
ト致シマシテ、只今御話ノアリマシタ如ク
東北振興調査委員ナルモノモ生レマシタ、
一年ヲ經テ其ノ答申ハ二十數件ニ互ツテ爲
サレタト思ヒマス、唯私ハアノ答申ハ誠ニ
何レモ結構デゴザイマスケレドモ、數多ノ
項目ヲ羅列シタノデアリマシテ、何方重點
デアルカ、何レニ骨子ヲ置イテ振興ヲ圖ラ
ムトスルノデアルカ、私ハ其ノコトハ詳シ
ク存ジマセヌノデアリマスルケレドモ、書
物ダケヲ見マシタノデハ其ノ點ニ憾ミヲ遺
シテ居ルノデゴザイマス、サウシテ異常ニ
熱心デアリマス所ノ前政府、又現政府ガ之
ヲ承ケ繼ギマシテ、東北ヲ如何ニ救済スル

カト云フ立案ヲ致シタ其ノ結果ヲ見レバ、遺憾ナガラ一千餘萬圓ニ過ギナイノデアリマス、其ノ爲スコトモ亦未精ニ過ギナイト考ヘマス、又其ノ中ニハ一千萬圓ト申シマシテモ、普通ノ他ノ地方ト同様ナル意味ニ於ケル匡救、色々ナ事業ガ其ノ中ニ多分ニ包括セラレテ居リマスニ鑑ミレバ、如何ニ東北ノ振興ノ爲ノ經費ト云フモノハ、誠ニ貧弱デアアルコトヲ思ハシムルノデゴザイマス、斯クノ如クシテ只今此ノ兩法案ガ生レタノデゴザイマス、固ヨリ是ハ地方ヲ匡救スルノ效果ハアルデゴザイマセウケレドモ、併シ腦髓ガ何處ニアルカ、丁度人間ガ頭カラ生レルノデナク、胴體カ足カラ生レタト云フ感ジガ致スノデゴザイマス、ソコデ私ノ伺ヒタイノハ、一體東北振興ノ根本策ハ何處ニアルノデアアルカ、事業計畫ノ大體ト年次ニ付テ詳シク伺フコトハ姑ク是ハ止メマシテ、何處ヘ東北ヲ持ッテ行クノデアアルカ、如何ナル目標ヲ掲ゲルノデアアルカ、ドウ云フ程度ニ東北ヲ高メルノデアアルカト云フコトニ對スル所ノ政府ノ根本方針ヲ御尋ヲ申上ゲタイノデゴザイマス、尙又ソレニ關聯ヲ致シマシテ、東北振興調査會ト云フモノガ設ケラレテゴザイマス、私共ハ誠ニ結構ナコトト思フ、ガ其ノ役所ヘ行ッテ見

マスレバ長官ガ居リマセヌ、資源局長官ガ東北振興調査局長ト云フオ役ヲ兼ネテ居ラレル、即チ本職ニ非ズシテ兼職ヲ頭ニ戴イテ居ルノデアリマス、敢テ形式ヲ問フノデハゴザイマセヌケレドモ、斯クノ如キコトハ眞劍ニ東北ヲ救済スル内閣ノ唯一ノ機關ト

シテ、セメテハ其ノ頭首トナルベキ所ノ局長ヲ置クト云フ位ナコトハ爲サツテ下サツテモ宜シイト思フ、又其ノ中ニ居リマス所ノ事務ヲ扱フ方々ナドヲ見マシテモ、誠ニ少ク手不足デ、ソレハ優秀ナ方々ニ相違ハゴザイマセヌケレドモ、此ノ組織デハ恐ラク何事モ十分ニハ爲シ得ナイノデハナイカト疑ハレル位デアリマス、ソコデ此ノ東北振興調査委員並ニ東北振興調査局ヲ、將來ドノヤウニ爲サル御意圖デアアルカヲ伺ヒタイノデアリマス、第三點ニハ、等シク東北ト申シマシテモ非常ニ差異ガゴザイマス、格段ノ差異ガアルノデゴザイマス、産業ノ上カラ見マシテモ、經濟ノ上カラ見マシテモ大差ガゴザイマス、殖産興業ノ必要ハ、右ノ程度ニ依リマシテ自ラ力ヲ用ヒル所ニ差異ガナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、無論東北ノ一體デアアル、一體ト見テヤルノデゴザイマスルカラシテ、總括的ニ考慮シナケレバナリマセヌガ、仔細ニ内部ヲ檢討スルト云フト甚ダシキ相違ガアルノデゴザイマス、之ヲ詳シク申上ゲル必要モナク、政府ニ於テハ夙ニ御承知デゴザイマス、ソコデ私ノ御尋ネシタイノハ左様ナ、同じ東北中ニ於キマシテモ著シキ懸隔ノアルコトヲ、如何ニ考慮シテオヤリニナル所ノ指導精神デアアリニナルカ、固ヨリ此ノ兩會社ハ營利ヲ主トスルモノデモナク、又其ノ事業等ニ於キマシテモ、斯クスレバ斯ノ如キ結果ヲ生ムト云フヤウナ工合ニ、色々ナ方面ヲ考慮シナケレバナラヌニ相違アリマセヌケレドモ、其ノ主トスル所ハ東北振興

デアル以上、最も振興シナケレバナラヌ所ニ力ヲ注グト云フコトニ關スル指導方針ガ、如何デアアルカヲ伺ヒタイノデアリマスガ、私ハ該法案ニ於テ、ソレヲ發見スルコトガ出來ナカッタノデゴザイマス、以上ノ三點ニ付キマシテ質問ヲ申上ゲタイト思ヒマス

（國務大臣馬場鐵一君演壇ニ登ル）
○國務大臣（馬場鐵一君） 只今淺田男爵ヨリノ御質問ガアリマシタ點ニ付キマシテ、便宜上私ヨリ御答ヘ申上ゲタイト思ヒマス、只今御演說ニアリマシタ通り、東北振興ニ付キマシテハ内閣ニ東北振興事務局ヲ置キ、東北振興調査會ヲ置キマシテ、精々其ノ方ニ研究努力致シ來リマシテ、其ノ委員會ノ決議ニ基キマシテ、昭和十年度ノ追加豫算並ニ昭和十一年度ノ今回ノ追加豫算ニ、先ヅ大體ニ於テハ應急ノ措置ガ計畫セラレマシテ、豫算ヲ要求シテ居ルヤウナ譯デアアルノデアリマス、而シテ茲ニ現レタ二法案モ、此ノ委員會ノ決議ニ基キマシテ、東北ノ振興上是非トモ無ケレバナラヌ特殊會社トシテ立案セラレタ譯デアリマスルガ、昭和十二年度以降ニ互リマシテ、此ノ振興調査會ニ諮問セラレテ居リマスル東北振興ノ根本方策、ソレヲ綜合的ニ計畫致シマシテ、能ク財政ノ關係ヲ考慮致シマシテ、恐ラクハ繼續ノ事業トシテ、十二年度以降ニ豫算ニ現レルコトト考ヘテ居ルノデアリマス、只今申上ゲマシタ如クニ政府ハ此ノ調査會ニ根本方策ヲ諮問致シテ居ルノデアリマスルカラシテ、自ラ此ノ調査會ニ於キマシテ適當ナル根本方策ガ審議立案セラル、コト

ト期待致シテ居ルノデアリマス、只今ノ御説ニ依リマスルト、東北振興事務局ハ誠ニ小サナ役所デアリ、振興調査會ノ組織等ニ付テモ多少ノ御議論ガアリマスルヤウデアリマスルガ、私モ其ノ委員ノ一人ニ加リマシテ、先般來熱心ニ研究ヲ爲シツ、アツクモノデアリマスルガ、此ノ調査會ハ政府ニ於テ相當ニ力ヲ入レテ居リマスル關係上、熱心ニ各委員ハ東北ノ將來ヲ慮リマシテ、十分ナル審議ヲ遂ゲツ、アルノデアリマスルカラ、私ハ此ノ調査會ヨリシテ適當ナル根本計畫ガ、審議立案セラル、ト云フコトヲ十分ニ期待シ得ルト考ヘテ居リマス、又此ノ振興事務局ナルモノハ、誠ニ今日デハ兼務者ガ局長デハアリマスルケレドモ、ソレダカラト申シテ、決シテ私ハ調査會カラ生レ出ル案ガ不完全ナモノデアラウトハ考ヘテ居ラナイノデアリマス、尙御尋ニ依リマス

ト、東北地方モ地方ニ依ッテ事情ヲ異ニスルガ、其ノ事情ニ適切ナル施設計畫ヲシテ行クカドウカト云フヤウナ意味ノ御尋ノヤウニ思ヒマスガ、勿論東北ト申シマシテモ青森縣、岩手縣、秋田縣、或ハ宮城縣等ガ必ズシモ事情ヲ同ジウ致シテ居ルトハ思ハナイノデアリマス、併シ大體ニ於テ東北六縣ヲ打ッテ一丸ト考ヘテ政策ハ立テテ居リマスルケレドモ、今回ノ二ツノ特殊會社ガソレゾレ地方ノ實情ニ即シテ、仕事ヲヤツテ行クコトハ勿論デアアラウト思フノデアリマス、是等モ今後綜合的ノ根本計畫ヲ立テマスル際ニ於テ、調査會ニ於キマシテハ其ノ地方地方ノ事情ニ相當、即シテ物ヲ考ヘテ行ク

ト、東北地方モ地方ニ依ッテ事情ヲ異ニスルガ、其ノ事情ニ適切ナル施設計畫ヲシテ行クカドウカト云フヤウナ意味ノ御尋ノヤウニ思ヒマスガ、勿論東北ト申シマシテモ青森縣、岩手縣、秋田縣、或ハ宮城縣等ガ必ズシモ事情ヲ同ジウ致シテ居ルトハ思ハナイノデアリマス、併シ大體ニ於テ東北六縣ヲ打ッテ一丸ト考ヘテ政策ハ立テテ居リマスルケレドモ、今回ノ二ツノ特殊會社ガソレゾレ地方ノ實情ニ即シテ、仕事ヲヤツテ行クコトハ勿論デアアラウト思フノデアリマス、是等モ今後綜合的ノ根本計畫ヲ立テマスル際ニ於テ、調査會ニ於キマシテハ其ノ地方地方ノ事情ニ相當、即シテ物ヲ考ヘテ行ク

ト、東北地方モ地方ニ依ッテ事情ヲ異ニスルガ、其ノ事情ニ適切ナル施設計畫ヲシテ行クカドウカト云フヤウナ意味ノ御尋ノヤウニ思ヒマスガ、勿論東北ト申シマシテモ青森縣、岩手縣、秋田縣、或ハ宮城縣等ガ必ズシモ事情ヲ同ジウ致シテ居ルトハ思ハナイノデアリマス、併シ大體ニ於テ東北六縣ヲ打ッテ一丸ト考ヘテ政策ハ立テテ居リマスルケレドモ、今回ノ二ツノ特殊會社ガソレゾレ地方ノ實情ニ即シテ、仕事ヲヤツテ行クコトハ勿論デアアラウト思フノデアリマス、是等モ今後綜合的ノ根本計畫ヲ立テマスル際ニ於テ、調査會ニ於キマシテハ其ノ地方地方ノ事情ニ相當、即シテ物ヲ考ヘテ行ク

ト、東北地方モ地方ニ依ッテ事情ヲ異ニスルガ、其ノ事情ニ適切ナル施設計畫ヲシテ行クカドウカト云フヤウナ意味ノ御尋ノヤウニ思ヒマスガ、勿論東北ト申シマシテモ青森縣、岩手縣、秋田縣、或ハ宮城縣等ガ必ズシモ事情ヲ同ジウ致シテ居ルトハ思ハナイノデアリマス、併シ大體ニ於テ東北六縣ヲ打ッテ一丸ト考ヘテ政策ハ立テテ居リマスルケレドモ、今回ノ二ツノ特殊會社ガソレゾレ地方ノ實情ニ即シテ、仕事ヲヤツテ行クコトハ勿論デアアラウト思フノデアリマス、是等モ今後綜合的ノ根本計畫ヲ立テマスル際ニ於テ、調査會ニ於キマシテハ其ノ地方地方ノ事情ニ相當、即シテ物ヲ考ヘテ行ク

コトニナラウト私ハ期待シテ居ル譯デアリマス、只今ノ御説ニ依リマシテ唯僅カニ此ノ二會社ノ法案ヲ提出シテ、將來ノ東北振興ヲ何カ輕ンズルカノ如クニ若シ御考ガアリマスルナラバ、政府ハ斷ジテサウ考ヘテ居ラナイノデアリマス、十二年度以降ニ繼續的ニ根本計畫ヲ立テテ東北振興ヲ圖ツテ行ク、斯ウ云フコトニ御了承ヲ願ヒタイノデアリマス

○男爵淺田良逸君 只今ノ詳細ノ御答辯ニ依ッテ理解ノ歩ヲ進メマシタガ、更ニ質問ヲ致シ、又論議ヲ盡シタイト思フ點ハ、他ノ機會ニ於テ致シタイト思ヒマス、之ヲ以テ質問ヲ終リマス

○子爵池田政時君 只今議題ト相成リマシタ東北興業株式會社法案外一件ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、其ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 賛成
○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、書記官ヲシテ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔角倉書記官朗讀〕

東北興業株式會社法案外一件特別委員

侯爵西郷 從德君 侯爵池田 宣政君
伯爵溝口 直亮君 子爵岡部 長景君
子爵米田 國臣君 子爵大岡 忠綱君

宇佐美勝夫君 太田 政弘君

男爵有地藤三郎君 男爵淺田 良逸君
堀切善次郎君 男爵松岡 均平君
菅原 通敬君 田所 美治君
宇野 勇作君 田中德兵衛君
辻 兵吉君 金成 通君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第四、鐵道敷設法中改正法律案、日程第五、岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業ニ屬スル資産買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、日程第六、江當軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案、政府提出衆議院送付、第一讀會、是等ノ三案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、前田鐵道大臣

鐵道敷設法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月十四日
衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

鐵道敷設法中改正法律案
別表第八十六號ノ末尾ニ「及赤穂附近ヨリ分岐シテ那波附近ニ至ル鐵道」ヲ加フ
別表第十一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
百十一ノ二 福岡縣羽犬塚ヨリ矢部ニ至ル鐵道

別表百十二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

百十二ノ二 佐賀縣基山ヨリ福岡縣大刀洗ヲ經テ甘木ニ至ル鐵道

別表百二十八號中「釜谷」ヲ「戸井」ニ改ム

別表百四十二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
百四十二ノ二 十勝國御影附近ヨリ日高國右左府ヲ經テ膽振國邊富内ニ至ル鐵道

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業ニ屬スル資産買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月十四日
衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道及兼業ニ屬スル資産買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案
政府ハ左ノ鐵道及兼業ニ屬スル資産買收ノ爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得
一 岩手輕便鐵道株式會社所屬鐵道及兼業ニ係ル索道業ニ屬スル資産
一 廣濱鐵道株式會社所屬鐵道
一 阿南鐵道株式會社所屬鐵道
一 佐世保鐵道株式會社所屬鐵道

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

江當軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十一年五月十四日
衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

江當軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
政府ハ江當軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣(前田米藏君)演壇ニ登ル〕

○國務大臣(前田米藏君) 只今上程サレマシタ鐵道敷設法中改正法律案ノ提出理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、今回ノ改正ハ現在ノ豫定線第八十六號、即チ「有年、西大寺間鐵道」ニ赤穂附近ヨリ分岐シテ那波附近ニ至ル鐵道ヲ追加シ、又「福岡縣羽犬塚ヨリ矢部ニ至ル鐵道」、「佐賀縣基山ヨリ福岡縣大刀洗ヲ經テ甘木ニ至ル鐵道」、「北海道ノ十勝國御影附近ヨリ日高國右左府ヲ經テ膽振國邊富内ニ至ル鐵道」ノ三鐵道ヲ、新ニ別表ニ掲ゲマスト同時ニ、現在ノ敷設法豫定線第二十八號、即チ函館カラ釜谷ニ至ル鐵道

ノ終點釜谷ヲ、戸井迄延長セムトスルモノデアリマス、是等ノ鐵道ハ地方開發上又ハ軍事上必要デアリ、且鐵道經濟上カラモ有利ト認メラレルモノデアリマシテ、何レモ昭和十一年度ヨリ工事ニ著手致シタイト考ヘテ居リマス、仍テ是等ヲ豫定鐵道線路トシテ追加スル爲メ茲ニ本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ望ミマス、次イデ買収補償ニ關スル法律案ノ説明ヲ簡單ニ申上ゲマス、此ノ法律案ハ地方鐵道及兼業ノ買収ト、軌道ノ營業廢止補償ノ爲ニスル公債發行ニ關スルモノゾゴザイマス、先ヅ買収ニ付テ申上ゲマスト、買収セムトスル鐵道ハ岩手輕便、廣濱、阿南、佐世保ノ四鐵道デアリマス、是等ハ何レモ建設工事ノ進捗ニ伴ヒマシテ、昭和十一年度中ニ買収ヲ必要トスルノゴザイマス、尙岩手輕便鐵道ガ兼營致シテ居リマスル索道業ハ鐵道ノ補助機關トシテ必要ト認メマスカラ、是モ併セテ買収スル考デアリマス、次ニ軌道ノ營業廢止ニ因ル補償デアリマスガ、補償セムトスル軌道ハ北海道ノ江當軌道デゴザイマス、是ハ國有鐵道ガ接近並行シテ敷設セラレマシタ結果、其ノ影響ヲ受ケマシテ營業ヲ繼續スルコトガ出來ナクナリマシタノデ、今回其ノ營業廢止ニ因ツテ生ズル損害ヲ補償セムトスル次第デゴザイマス、何卒御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵西大路吉光君 賛成

數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀致サセマス

(角倉書記官朗讀)

鐵道敷設法中改正法律案外二件特別委員

- 公爵島津 忠重君 侯爵中御門經恭君
- 伯爵後藤 一藏君 男爵安保 清種君
- 子爵井上匡四郎君 子爵立花 種忠君
- 子爵秋元 春朝君 男爵中村 謙一君
- 男爵大藏 公望君 坂野鉄次郎君
- 八田 嘉明君 堀 啓次郎君
- 門野幾之進君 平尾喜三郎君
- 小林嘉平治君 風間八左衛門君
- 青木才次郎君 山上 岩二君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第七、商工組合中央金庫法案、政府提出、衆議院送付、小川商工大臣

商工組合中央金庫法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十一年五月十四日 衆議院議長 福田幸次郎 貴族院議長公爵近衛文麿殿

○子爵池田政時君 只今上程サレマシタ鐵道敷設法中改正法律案外二件モ亦重要ナル法案デゴザイマスガ故ニ、其ノ特別委員ノ

商工組合中央金庫法案 第一讀會

商工組合中央金庫法案 第一章 總則

第一條 商工組合中央金庫ハ商業組合、商業組合聯合會、工業組合、工業組合聯合會、輸出組合及輸出組合聯合會ニ對スル金融ノ圓滑ヲ圖ル爲メ必要ナル業務ヲ營ムコトヲ目的トス

第二條 商工組合中央金庫ハ法人トス 所ヲ東京市ニ置ク

第三條 商業組合聯合會、工業組合聯合會、輸出組合聯合會又ハ銀行ハ商工組合中央金庫ノ業務ノ一部ヲ代理スルトヲ得

第四條 商工組合中央金庫前項ノ聯合會又ハ銀行ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシメントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五條 商業組合聯合會、工業組合聯合會又ハ輸出組合聯合會ハ商工組合中央金庫ニ對シ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得

第六條 前項ノ規定ニ依リ債務ノ保證ヲ爲シタルトキハ商業組合聯合會、工業組合聯合會又ハ輸出組合聯合會ハ商工組合中央金庫ノ委任ヲ受ケ其ノ債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得

第七條 商工組合中央金庫ノ存立期間ハ設立認可ノ日ヨリ五十年トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第八條 商工組合中央金庫ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 存立期間

五 出資者タル資格ニ關スル規定

六 所屬組合又ハ所屬聯合會ノ加入及脫退ニ關スル規定

七 資本金額並ニ出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定

九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

- 十 出資者ノ權利義務ニ關スル規定
- 十一 業務及其ノ執行ニ關スル規定
- 十二 商工債券ノ發行ニ關スル規定
- 十三 役員ニ關スル規定
- 十四 會議ニ關スル規定
- 十五 會計ニ關スル規定
- 十六 公告ノ方法
- 第六條 商工組合中央金庫ノ資本金ハ千萬圓トシ之ヲ十萬圓ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス
- 第七條 商工組合中央金庫ハ資本金全額ノ拂込前ト雖モ總會ノ決議ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ資本金ヲ增加スルコトヲ得
- 第七條 政府、商業組合、商業組合聯合會

會、工業組合、工業組合聯合會、輸出組合又ハ輸出組合聯合會ノ外商工組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ズ

一組合又ハ一聯合會ノ有スベキ出資口數ハ千口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

商工組合中央金庫ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

第八條 政府ハ五百萬圓ヲ商工組合中央金庫ニ出資ス

政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ二百萬圓ヲ拂込ミ爾後三年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

組合又ハ聯合會ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

政府ノ商工組合中央金庫ニ對シテ有スベキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 商工組合中央金庫ハ出資者ニ對シ其ノ持分ヲ拂戻スコトヲ得ズ

第十條 所屬組合又ハ所屬聯合會ハ持分ノ讓渡ニ依リテノミ脱退スルコトヲ得

第十一條 出資者ハ總出資者ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ理事長ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事長ガ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依リ請求アリタル後二週間以内ニ

總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル出資者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ招集スルコトヲ得

第十二條 商工組合中央金庫ニ非ザルモノハ商工組合中央金庫又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十三條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十四條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ事實ノ生ジタル後二週間以内ニ之ヲ登記スベシ

登記スベキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十五條 商工組合中央金庫ハ理事長ガ設立委員ヨリ其ノ事務ノ引渡ヲ受ケタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ
一 第五條第一號、第二號、第四號、第七號及第十六號ニ掲ゲタル事項
二 事務所
三 拂込資本金額
四 設立認可ノ年月日
五 理事長、理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十六條 設立ノ登記ハ理事長、理事及

監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ
前項ノ登記申請書ニハ定款、創立總會ノ決議録、出資ノ引受ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面及申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第十七條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事長又ハ清算人全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

前項ノ登記申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人ガ同一ノ登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セズ

第十八條 解散ノ登記ハ清算人全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ
前項ノ登記申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事長ガ清算人タラザル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

商工組合中央金庫ガ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スベシ

第十九條 清算人ノ選任アリタルトキハ商工組合中央金庫ハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名及住所ヲ登記スベシ

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ

第二十條 清算人ニ關スル登記及清算結

了ノ登記ハ清算人全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ
第二十一條 商工組合中央金庫ニ關スル登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ商工組合中央金庫登記簿ヲ備フ

第二十二條 商工組合中央金庫ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第二十三條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條、非訟事件手續法第三百十八條、第三百十八條ノ三、第四百十條第五號、第四百四十一條乃至第五百一十一條ノ六、第五百四十四條乃至第五百五十七條、第六十五條、第七十二條乃至第七十七條、第八條、第七十七條第二項及第七十八條、第十七條第一項、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十九條乃至第三十一條ノ三、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條、第三十八條ノ一、第三十九條

第一項第二項、第四十三條、第四十四條、第四十八條、第四十八條ノ二、第六十條第二項、第六十二條（第一項第四號ヲ除ク）、第六十三條第一項、第

第一讀會

六十五條、第七十條乃至第七十三條ノ三、第七十四條ノ二第一項及第四百四條ノ規定ハ商工組合中央金庫ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ民法及産業組合法中理事トアルハ之ヲ理事長(民法第五十九條竝ニ産業組合法第三十三條及第三十四條ノ二第一項ニ在リテハ理事長及理事)トシ地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ主務大臣トス

第二章 役員

第二十四條 商工組合中央金庫ニ理事長一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第二十五條 理事長ハ商工組合中央金庫ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ理事長ヲ補助シ商工組合中央金庫ノ業務ヲ掌理シ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ商工組合中央金庫ノ業務ヲ監査ス

第二十六條 理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズ

理事長及理事ノ任期ハ五年、監事ノ任期ハ三年トス

第二十七條 商工組合中央金庫ニ評議員二十人以上ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ但シ其ノ半数以上ハ商業組合、工業組合及輸出組合ノ關係者中ヨリ之ヲ命ズル

コトヲ要ス
評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ズルモノトス
評議員ノ任期ハ三年トス

第三章 業務

第二十八條 商工組合中央金庫ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ業務ヲ營ムモノトス

- 一 所屬組合又ハ所屬聯合會ニ對シ擔保ヲ徵セズシテ五年以内ノ定期償還又ハ月賦償還貸付ヲ爲スコト
- 二 所屬組合又ハ所屬聯合會ニ對シ擔保ヲ徵セズシテ二十年以内ノ年賦償還又ハ半年賦償還貸付ヲ爲スコト
- 三 所屬組合又ハ所屬聯合會ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト
- 四 所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ荷爲替手形ニ關スル保證業務ヲ爲スコト
- 五 所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ内國爲替業務ヲ爲スコト
- 六 商業組合、商業組合聯合會、工業組合、工業組合聯合會、輸出組合、輸出組合聯合會、公共團體其ノ他營利ヲ目的トセザル法人ヨリ預金ノ受入ヲ爲スコト
- 七 所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ有價證券ノ保護預リ又ハ其ノ委託買賣ヲ爲スコト

商工組合中央金庫ハ必要アリト認ムル

トキハ擔保ヲ徵シテ前項第一號乃至第四號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

年賦償還又ハ半年賦償還貸付ニシテ其ノ期限五年ヲ超ユルモノニ付テハ其ノ總額ハ拂込資本金額及商工債券發行額ノ合計額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十九條 商工組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

- 一 國債證券、地方債證券又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ買入ヲ爲スコト
- 二 大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト爲スコト
- 三 商業組合、商業組合聯合會、工業組合、工業組合聯合會、輸出組合又ハ輸出組合聯合會ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

前項ノ餘裕金運用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 商工組合中央金庫ハ本法ニ規定セザル業務ヲ營ムコトヲ得ズ

第四章 商工債券

第三十一條 商工組合中央金庫ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ商工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在額、割引手形現在額及其ノ所有ニ係ル有價證券現在額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十二條 商工債券ハ券面金額五十圓以上トシ無記名式利札付トス但シ應募

者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名式ト爲スコトヲ得

第三十三條 商工組合中央金庫ハ商工債券兌換ノ爲一時第三十一條ノ制限ニ依ラズ商工債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ商工債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月以内ニ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊商工債券ヲ償還スベシ

第三十四條 商工組合中央金庫ニ於テ商工債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十五條 商工債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第三十六條 所得税法、資本利子税法及登録税法中社債ニ關スル規定ハ商工債券ニ之ヲ準用ス

第三十七條 商工債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第三十八條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外商工債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 計算

第三十九條 商工組合中央金庫ノ事業年度ハ四月ヨリ九月迄及十月ヨリ翌年三月迄トス

第四十條 商工組合中央金庫ハ事業年度毎ニ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第六章 監督及補助

第四十一條 主務大臣ハ商工組合中央金

庫ノ業務ヲ監督ス

第四十二條 商工組合中央金庫ノ定款ノ變更及剩餘金ノ處分ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十三條 主務大臣ハ商工組合中央金庫ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、檢査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ商工組合中央金庫ノ貸付、手形ノ割引又ハ保證ニ付其ノ金額又ハ方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十五條 商工組合中央金庫ハ事業年度毎ニ貸付利率及手形ノ割引歩合ノ最高限度ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第四十六條 主務大臣ハ商工組合中央金庫監理官ヲ置キ商工組合中央金庫ノ業務ヲ監視セシム

第四十七條 商工組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ商工組合中央金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

商工組合中央金庫監理官ハ監視上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ商工組合中央金庫ニ命ジテ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

商工組合中央金庫監理官ハ商工組合中央金庫ノ總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十八條 商工組合中央金庫ノ業務若

ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ業務ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ商工組合中央金庫ノ行爲ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 總會ノ決議ヲ取消
二 役員又ハ清算人ノ解任
三 業務ノ停止
四 解散

第四十九條 商工組合中央金庫ハ設立ノ時ヨリ三十事業年度間政府ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章 罰則
第五十條 商工組合中央金庫ノ理事長、理事又ハ監事何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ商工組合中央金庫ノ業務ノ範圍外ニ於テ貸付若ハ手形ノ割引ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ商工組合中央金庫ノ財産ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五十一條 左ノ場合ニ於テハ商工組合中央金庫ノ理事長、理事、監事又ハ清算人ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ
二 行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 本法ニ依リ行政官廳ノ命ズル報告ヲ爲サズ、其ノ檢査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ
四 本法ニ違反シテ投資者ノ持分ヲ拂戻シタルトキ
五 本法ニ違反シテ投資者ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
六 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ
七 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ
八 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ商工債券ヲ發行シタルトキ
九 第三十三條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
十 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ
十一 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

第五十二條 左ノ場合ニ於テハ商工組合中央金庫ノ理事長、理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
二 本法ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集

ヲ怠リタルトキ

三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ事務所ニ備置クベキ書類ヲ備ヘザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

四 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第五十三條 第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則
第五十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十六條 政府ハ設立委員ヲ命ジ商工組合中央金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第五十七條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後政府以外ノ投資者ヲ募集スベシ

第五十八條 設立委員ハ投資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ商工組合中央金庫設立ノ認可ヲ申請スベシ
前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資ノ第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルキハ設立委員ハ
遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ
設立委員ハ商工組合中央金庫ノ設立ニ
關スル事項ヲ創立總會ニ報告スベシ

第五十九條 創立總會終結シタルトキハ
設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ商工組
合中央金庫理事長ニ引渡スベシ

第六十條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ
外商工組合中央金庫ノ設立ニ關シ必要
ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 登錄稅法第六條第一項第十
一號中「産業債券」ノ下ニ「商工債券」
ヲ、第十九條第七號中「漁業組合聯合
會」ノ下ニ「商工組合中央金庫」ヲ、「漁
業法」ノ下ニ「商工組合中央金庫法」ヲ
加フ

印紙稅法第四條第一項第十一號中「漁
業組合聯合會」ノ下ニ「商工組合中央金
庫」ヲ加フ

〔國務大臣小川郷太郎君演壇ニ登ル〕
レマシタ商工組合中央金庫法案提案ノ理由
ヲ簡單ニ御説明致シマス、我方國ノ商工業
ノ大部分ハ所謂中小商工業ニ屬シテ居リマ
シテ、中小商工業者ハ我方國産業上ニ於テ
基礎的地位ヲ占メテ居リマスノミナラズ、
之ヲ社會的ニ見マシテモ、中小商工業者ハ
國家ノ中堅階級ヲ成シ、之ガ生活ノ安定ヲ
圖ルコトハ國力ノ伸張上重要ナル關係ヲ有
スルモノト云ハネバナリマセヌ、然ルニ中
小商工業者ハ元來個人トシテハ薄資微力デ
アリマシテ、相互ニ連絡提携ナク、其ノ企

業經營上ニ幾多ノ缺陷ヲ有シ、延イテ金融
ノガ常デアリマス、之ヲ此ノ儘ニ放置シ
マスルコトハ、我方國産業ノ發展並ニ國力
ノ伸張上、洵ニ憂フベキ結果ヲ招クノ虞ガ
アリマスカラ、政府ニ於キマシテモ夙ニ商
業組合、工業組合及輸出組合ノ制度ヲ設
ケ、中小商工業者ヲシテ自力更生ノ精神ニ
基キ組合ヲ組織セシメマシテ、各種ノ共同
施設ヲ營ミ、協同ノ力ニ依リ、各自ノ企業
經營ノ改善合理化ヲ圖ルト共ニ、其ノ信用
ヲ向上シ、以テ之ガ金融ノ圓滑ヲ期シテ居
ルノデアリマス、幸ヒ制度創始以來各組合
ハ相當ナル普及發達ヲ爲シ、其ノ事業成績
ノ良好ナルモノ亦少クアリマセヌ、併シナ
ガラ商業組合、工業組合及輸出組合ハ、從
來一般ニ其ノ信用ガ十分ニ理解セラレズ、
爲ニ動モスレバ其ノ資金ノ融通ニ圓滑ヲ缺
キマシテ、事業ノ圓滿ナル遂行ヲ妨ゲラレ
ルノミナラズ、之ニ依ッテ組合ノ健全ナル發
達ヲ阻害セラレルコトモ亦少クナイノデア
リマス、斯クノ如キハ中小商工業者更生ノ
ノ爲ニ甚ダ遺憾ナク次第デアリマスカラ、此
ノ際同業相助ノ精神ニ依リマシテ、各組合
ニ出資ヲ爲サシメ、政府モ亦之ニ出資ヲ致
シマシテ、新ニ商工組合中央金庫ヲ設置シ、
相倚リ相助ケテ組合金融ノ圓滑ヲ圖リ、組
合ノ内容ノ充實ト其ノ健全ナル發達トヲ促
進シ、以テ中小商工業者ノ企業經營ノ改善
合理化ニ資シ、中小商工業者ノ振興ヲ期シ
タイト考ヘル次第デアリマス、何卒十分御
審議ノ上、御協賛アラムコトヲ希望致シマス

上ニ於キマシテモ極メテ不利ナ情況ニ在ル
ノガ常デアリマス、之ヲ此ノ儘ニ放置シ
マスルコトハ、我方國産業ノ發展並ニ國力
ノ伸張上、洵ニ憂フベキ結果ヲ招クノ虞ガ
アリマスカラ、政府ニ於キマシテモ夙ニ商
業組合、工業組合及輸出組合ノ制度ヲ設
ケ、中小商工業者ヲシテ自力更生ノ精神ニ
基キ組合ヲ組織セシメマシテ、各種ノ共同
施設ヲ營ミ、協同ノ力ニ依リ、各自ノ企業
經營ノ改善合理化ヲ圖ルト共ニ、其ノ信用
ヲ向上シ、以テ之ガ金融ノ圓滑ヲ期シテ居
ルノデアリマス、幸ヒ制度創始以來各組合
ハ相當ナル普及發達ヲ爲シ、其ノ事業成績
ノ良好ナルモノ亦少クアリマセヌ、併シナ
ガラ商業組合、工業組合及輸出組合ハ、從
來一般ニ其ノ信用ガ十分ニ理解セラレズ、
爲ニ動モスレバ其ノ資金ノ融通ニ圓滑ヲ缺
キマシテ、事業ノ圓滿ナル遂行ヲ妨ゲラレ
ルノミナラズ、之ニ依ッテ組合ノ健全ナル發
達ヲ阻害セラレルコトモ亦少クナイノデア
リマス、斯クノ如キハ中小商工業者更生ノ
ノ爲ニ甚ダ遺憾ナク次第デアリマスカラ、此
ノ際同業相助ノ精神ニ依リマシテ、各組合
ニ出資ヲ爲サシメ、政府モ亦之ニ出資ヲ致
シマシテ、新ニ商工組合中央金庫ヲ設置シ、
相倚リ相助ケテ組合金融ノ圓滑ヲ圖リ、組
合ノ内容ノ充實ト其ノ健全ナル發達トヲ促
進シ、以テ中小商工業者ノ企業經營ノ改善
合理化ニ資シ、中小商工業者ノ振興ヲ期シ
タイト考ヘル次第デアリマス、何卒十分御
審議ノ上、御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長〔公爵近衛文麿君〕 質疑ノ通告ガゴ
ザイマス、森平兵衛君

〔森平兵衛君演壇ニ登ル〕
○森平兵衛君 只今上程ニナリマシタ商工
組合中央金庫法案ニ付テ、極ク簡單ニ商工
大臣ノ御所見ヲ承リタイト思フノデアリマ
ス、我方國産業界ニ於ケル中堅デアッテ、重
要ナル地位ヲ占メテ居リマスル中小商工業
者ノ更生ノ爲ニ本案ヲ御提出ニナリマシタ
コトハ、誠ニ私ハ機宜ヲ得タモノト存ジ衷
心贊意ヲ表スルモノデアリマス、然ルニ此
ノ法案ノ大體ヲ通覽致シマスルノニ、只今
商工大臣ノ御述ニナリマシタ通り、商業組
合、工業組合、輸出組合ノ此ノ三組合ノミ
ニ限ッテ、金融ノ疏通ノ途ヲ講ゼラレテ居ル
ノデアリマス、御承知ノ通り、明治三十三
年重要物産同業組合法ト云フモノガ制定ニ
ナリマシテ以來、我方國全國各地ニ同業者
間ノ意思連絡、或ハ同業者間ノ弊害ノ矯
正、或ハ同業者間ノ統制、各種ノ弊害ヲ除
去シ、以テ此ノ事業ノ發達ノ爲ニ、各地ニ
同業組合法ニ依ル同業組合ト云フモノハ相
當多數アルノデアリマス、而シテ是ノ機
能、或ハ擴充ト云フコトニ付キマシテハ、
法規ノ爲ニ頗ル遺憾ナクモアルノデアリマ
スルガ、産業上ノ歴史ヲ見マスルニ、是ハ
餘リ輕視スルコトハ私ハ出來ヌト考ヘルノ
デアリマス、然ルニ今回此ノ總則ノ第一條
ニ於キマシテ、此ノ同業組合ト云フモノガ
除外サレテ居ルト云フコトヲ、私ハ頗ル遺
憾トスル者デアリマス、東京並ニ大阪其ノ
他各地ニ於キマシテ、此ノ同業組合ノ聯合

會ヲ組織シテ、以テ此ノ中小商工業ノ發達
助長ニ對シテハ、長イ間貢獻スルコトガ頗
ル私ハ少クナイト思フノデアリマス、斯
クノ如キ相當ナル成績ヲ擧ゲ、又各地ニ散
在シテ居リマスル同業組合ヲ何故是カラ疎
外シタカト云フコトニ付キマシテ、商工大
臣ノ御意見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマ
ス、是ハ多分法規ノ關係上已ムヲ得ヌノデ
御除外ニナッタト思フノデアリマスルガ、
私ハ同業組合ノ改正法ト云フモノハ、多年
來是ハ矢張り同業組合聯合會其ノ他ニ於テ
叫ンデ居ルノデアリマス、是ノ法規ヲ適正
ニ改正セラレマシテ、我方國産業界、
或ハ中小商工業ノ更生ノ爲ニナサルコト云
フコトモ、決シテ無用デナイト信ズルノ
デアリマス、然ルニ商工省ノ方ニ於キマ
シテハ、同業組合ヲ其ノ儘ニシテオ置キ
ニナリマシテ、或ハ商業組合、工業組合、
又輸出組合ト云フモノヲ、新ニ御制定ニ
ナッテ居リマスルコトハ已ムヲ得ヌノ
デアリマスルガ、一面此ノ同業組合ヲ長ク
助長發展セシメテ居リマスル側カラ見マス
ルト、何ダカ同ジ組合デアルニ拘ラズ、同
業組合ダケ疎外セラレテ居ルヤウナ感ガ
アルコトハ誠ニ私ハ遺憾トスルノデアリマ
ス、而シテ此ノ同業組合ニ集メテ居リマス
ル經費モ相當莫大ナモノデアリマシテ、全
國ヲ通ジマスレバ矢張り數百萬ノ私ハ費用
ニ上ボルデアラウト思ヒマスルノデ、之ヲ
善處シ改正致シマシテ、矢張り此ノ中央金
庫ノ金融ノ流通ヲ得ラレルヤウニナサル御
意思ノナイモノデアラウカ、ドウデアラウ

カト云フコトヲ第一點ニ御尋ネシタイノデアリマス、モウ一點ハ此ノ商工組合中央金庫ノ資金ノ高デアリマスルガ、是ガ法律ニ依リマスルト、資本金方一千萬圓、政府ノ出資ガ五百萬圓、而シテ政府ノ最初ノ出資ガ二百萬圓、組合デ五百萬圓ヲ負擔致シマシテ、組合ハ其ノ五分ノ一ヲ拂込ムト云フコトニナリマスルト、合計三百萬圓ノ拂込ノモノニナルノデアリマス、而シテ商工債券ノ發行ハ、拂込資本ノ十倍、即チ三千萬圓ヨリ發行ガ出來スト云フコトニナツテ居リマス、サウ致シマスルト、合計致シマシテモ三千三百萬圓ノ資金ヨリ此ノ中央金庫ト云フモノハ持つテ居ラスノデアリマス、果シテ此ノ三千三百萬圓位ノ金デ中小ノ商工業者ニ對シテ十分更生、金融ノ途ヲ與ヘラレルカ否ヤト云フコトニ付テ、ドウ云フ御確信ガアリマシテ、此ノ三千三百萬圓、所謂資本金ヲ一千萬圓ニ御限定ニナツクモノカ、或ハ之ヲヤツタ工合デ此ノ法律ヲ改正シテ、モウ少シ増シテモ宜イト云フ御考デ、第一次ノコトデアアルカラスクノ如クニシタト云フ思召デアアルカ、其ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、第三點ト致シマシテハ、之ニ對スル損失補償ト云フモノガナイノデアリマス、各地ニ於キマシテ、其ノ府縣廳或ハ公共團體ニ於キマシテ、今日ノ中小商工業ノ蘇生、更生ノ爲ニハ、府縣費ヲ割イテ、此ノ損失補償ニ充テテ居ラレルヤウナコトモアルノデアリマスルガ、政府ト致シマシテ、唯組合ニ貸スダケノコトデアツデ、此ノ組合ニ對シテ若シモ多少ノ損失デモシタ場合ニ

ハ、之ニ對スル損失補償ト云フモノハナサレマセヌ意思デアアルカ、其ノ點ヲ御尋ネシタイト思ヒマス、序ニ私ハ此ノ中小商工業ノコトヲ一言政府ニ申上ゲタイノデアリマスルガ、私ハ此ノ中小商工業者ガ、數ニ於キマシテモ、又ハ實力ニ於キマシテモ、只今商工大臣ノ御演說ニナリマシタ通り、國家ノ中堅デアリ、是ハ決シテ輕視スルコトノ出來スト云フコトノ御趣旨ハ能ク承ツテ居ルノデアリマスルガ、私ハ中小商工業ノ更生ト云フモノハ、獨リ金融ダケデ出來ル問題デナイト斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、私ハ昨年或方面デ申上ゲタコトガアルノデアリマスルガ、丁度中小ノ商工業者ハ、甚ダ卑近ナ例證デアリマスルガ、「サンドウウィッチ」ミタイノモノダ、斯ウ私ハ申シテ居ルノデアリマス、何故カト申シマスルト、上方デハ大資本家、大企業家、或ハ法制、例ヘテ申シマスレバ、工場法ト云フモノモ、何百人使ツテ居リマス者モ十人以上使ツテ居リマスル者モ、同ジ法規制定セラレル、サウ云フコト、或ハ又産業統制、或ハ又大キイ事業デアレバ自己ノ統制ヲヤツテ、或ハ減産ヲナシテ價格ヲ維持スル、色々ナ方面デ保護助長ヲセラレテ居ル、中小ノ商工業者ニ對シテハ、比較的重イ負擔、詰リ課税、獨リ國稅ノミデハアリマセヌ、市町村稅モアリマスルガ、ソレヲ課セラレテ居ル、サウ云フ工合ニ上カラ重壓ヲ加ヘラレテ居ル、下ノ方カラハ、御承知ノ通り産業組合ト申シマシテ、一厘モ稅金ヲ拂ハヌ産業組合或ハ購買組合ガ、此ノ中小ノ商工業ヲ

脅スノデアリマス、是ハ衆議院或ハ此ノ議場デモ隨分問題ニナツテ居ルノデアリマス、而シテモウ一面、此ノ中小ノ商工業者ト云フモノハ數ノ多クアリマスル爲ニ、非常ニ亂立シテ居ルノデアリマス、統制ガ取レテ居ラス、自己ノ經營ダケニ於テ統制ヲ取ルコトガ出來スト云フ爲ニ、是亦一方カラ壓迫ヲ受ケテ、丁度「サンドウウィッチ」ミタイノヤウナ形デ兩方面カラ壓迫ヲ受ケテ、ナカク此ノ窮狀ト云フモノハ見ルニ忍ビナイモノガアルノデアリマス、故ニ政府ハ矢張り此ノ金融バカリデナク、何か他ノ方法ニ付テモ、此ノ中小商工業者ニ對スル更生ノ方法ヲ御考ニナツテ居ルモノカ、此ノ點ニ付テモ商工大臣ノ御答辯ヲ煩シタイト存ズル次第デアリマス

○國務大臣(小川郷太郎君演壇ニ登ル)

マシテ簡單ニ御答ヘ申上ゲマス、第一ノ御質問ハ重要産業組合ヲ加ヘナカッタノハドウ云フ譯カト云フコトデアリマシタ、同業組合ハ御話ニモアリマシタヤウニ、其ノ目的ハ主トシテ同業者ノ弊害矯正ヲ目的トシテ居ルノデアリマス、而シテ強制加入ノ團體デアリマス、然ルニ商業組合、工業組合等ハ共同施設其ノ他經濟的事業ヲ行フコトヲ目的トシテ居ルノデアリマス、同業組合ト商業組合、工業組合等トハ性質ヲ異ニシテ居ル所ガアルノデアリマシテ、デ此ノ中央金庫ヲ設立スルニ際シマシテ、同業組合ヲ投資者トシナカッタノデアリマス、尙同業組合ノ制度ニ付キマシテハ、今後十分研究致シタイ積リデアリマス、第二ニ本金庫ノ資本金ヲ一千萬圓トシタノハ不十分デハナイカト云フ御質問デアリマシタ、此ノ本金庫ノ資本金ヲ一千萬圓ニ定メマシタノハ、兩方面カラノ理由デアリマス、一ツハ商工關係組合ノ資金ノ需要額ニ依リマス、他方面ニハ組合側ノ出資能力ト云フモノニ依ツテ、サウ云フ額ヲ相當ト認メタノデアリマス、デ第一ニ資金ノ需要額ト致シマスレバ、現在此ノ商工關係組合、其ノ他中小商工業者ニ對スル預金部資金ノ融通情況ヲ見マシテ、ソレヲ推シマシテ、近イ將來ニ於テ約一億圓内外ノ資金ヲ要スルモノト推定シタノデアリマス、本金庫ハ拂込資本金ノ十倍マデ債券ヲ發行シ得ルト云フコトニシテ居リマスカラ、丁度本金庫ノ資本金ヲ一千萬圓トスレバ宜イト云フコトニナリマス、只今御質疑ノ中デハ三千三百萬圓ト云フヤウナ御話デアリマシタガ、此ノ一千萬圓ノ拂込ガ出來マシタ時分ニハ、一億圓ノ資金ガ債券ヲ發行スルコトガ出來ルト云フコトニ相成ルノデアリマス、第二ノ理由ハ組合側ノ出資能力デアリマスガ、現在商工關係組合ノ出資總額ハ四千二百萬餘圓デアリマス、拂込濟額ハ約一千五百萬圓デアリマス、積立金ハ約七百餘萬圓デアリマス、是等ノ情況カラ推察シマシテ、組合側ノ出資ハ五百萬圓程度ガ適當デアルト認メタノデアリマス、之ニ政府ガ同額ヲ出資スルモノトシテ、右ノヤウニ一千萬圓ト定メタノデアリマス、若シ此ノ額ヲ一千萬圓ヲ増シマススト云フト、組合側

ノ出資能力ニ相應シカラヌモノヲ強ヒテ出資セシメルコトニナルト思フノデアリマス、此ノ組合ノ發達ノ現狀ニ即シマシテ、此ノ程度ノ出資ヲナサシメルコトガ無理デナイ、妥當ナモノデアルト考ヘタノデアリマス、商工關係組合ノ現狀カラ申シマスレバ、今申上ゲタヤウニ一十萬圓ノ資本デ十分思ヒマスガ、併シ商工關係組合目下發達途上ニアリマシテ、組合數ノ如キモ逐年激増シテ居リマスノデ、是等ノ組合ヲ差支ナク本金庫ニ加入セシメル爲ニハ、將來本金庫ノ資本金ヲ増額スルノ要アルヤウニナルダラウト思ヒマス、其ノ際ニハ法律ノ規定ニ依リマシテ、主務大臣ノ認可ヲ受ケテ増資ヲナスト、斯ウ云フコトニシタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ第三ノ御質疑ハ本金庫ノ貸付ニ付キマシテ、損失補償ヲナスコトヘドウカト云フヤウナ點ニアツト思ヒマス、本金庫ハ商工關係組合ガ、自力更生ノ精神ニ依リマシテ組織スル相互金融機關デアリマスカラシテ、其ノ經營ハ獨立自主ノ建前ヲ以テ計畫スベキモノデアリマシテ、本金庫ノ通常ノ業務タル貸付金額ニ付キマシテ、當初カラ損失補償ヲ豫想スルト云フノハ妥當デナイヤウニ考ヘマシテ、此ノ本金庫ニ損失補償ノ制度ヲ結ビ付ケテハイケマセヌノデアリマシテ、但シ現ニ實施中ノ府縣損失補償制度ノ如キハ、直チニ之ヲ本金庫ニ適用シテ差支ナイモノト考ヘテ居リマス

タ、此ノ金融ノ外ニ中小ノ商工業ニ對シテ、統制ノ方法ニ付テ御考ニナツテ居ルカドウカト云フコトノ御答辯ガナイヤウデゴザイマス、御答ゴザイマセネバ致シ方アリマセヌガ、何カ御考ガアレバ此ノ際御答辯ヲ願ヒマス

〔國務大臣小川郷太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(小川郷太郎君) 商工組合制度ハ單純ニ金融ヲ目的トスルモノデハアリマセヌ、經濟的共同事業及統制ヲモ目的トシテ居リマシテ、企業ノ改善ヲ目的トシテ居リマス、ソレデ商工組合ヲ發達セシメマシテ、中小商工業ヲ維持發達セシメタイト思フノデアリマスガ、御尋ノヤウニ金融機關ヲ整ヘルト云フコトノミヲ以テ、商工業者ヲ保護スルト、ソレニ限ラレタ譯デアリマセヌ、尙組合制度以外ニ於キマシテモ、色々ノ方法ニ依リマシテ、商工業ヲ維持發達セシメヨウト考ヘテ居ル次第デアリマス

○子爵池田政時君 只今上程サレマシタ商工組合中央金庫法案、此ノ法案モ亦重要ナル法案デゴザイマス、故ニ其ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔角倉書記官朗讀〕

商工組合中央金庫法案特別委員

- 公爵島津 忠承君 侯爵大隈 信常君
- 伯爵有馬 頼寧君 子爵曾我 祐邦君
- 子爵西尾 忠方君 子爵米倉 昌達君
- 男爵郷 誠之助君 柴田善三郎君
- 男爵東郷 安君 男爵伊藤 文吉君
- 有賀 光豐君 阿部房次郎君
- 小倉 正恒君 細田安兵衛君
- 濱口儀兵衛君 佐々木八十八君
- 水野甚次郎君 澁澤 金藏君

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ日程第一ニ戻リ質疑ヲ許シマス、加藤政之助君ヨリ、先日ノ發言ニ付テ訂正致シタキ旨ノ申出ガゴザイマシタ、同君ノ發言ヲ許スコトニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、加藤政之助君

〔加藤政之助君演壇ニ登ル〕

○加藤政之助君 私ハ去ル九日文部大臣ニ對シテ、漢字廢止ニ關スル質問ヲ提起致シマシタ、其際用ヒマシタ引例ノ一部分ヲ訂正致シテ置キタイト思フノデアリマス、其ノ全文ヲ茲ニ朗讀致シマス、「去ル九日私ノ文部大臣ニ對スル漢字廢止ニ關スル質問ノ引例中伊澤修二君ガ假名ノ會ノ提唱者デアリシ如ク申述ベタルハ誤リデアリマス、仍テ茲ニ之ヲ訂正致シテ置キマス」、以上

○議長(公爵近衛文麿君) 水野君

〔水野甚次郎君演壇ニ登ル〕

○水野甚次郎君 帝國ト殆ド同緯度、而モ大陸ニ接スル島帝國タル點ニ於キマシテ、全

ク其ノ趣ヲ等シクセル英國ガ、日ノ没セザル國ト誇號シ得ル所以ノモノハ、全ク數世紀以前ヨリ海ノ交通ニ著眼シ、至ル所其ノ爪牙ニカケタルニ反シ、帝國ハ鎖國攘夷ノ夢破レズ、遂ニ此ノ懸隔甚ダシキ結果ヲ見タノデアリマス、新進米國ガ陸ノ交通完備ニ基キ、今日ノ發展ヲ贏チ得タコト、又議論ノ餘地ハゴザイマセヌ、將來地球上ニ王座ヲ占メムトシ、或ハ世界ニ覇ヲ唱ヘムト欲スルモノハ、當然空ノ交通ヲ支配スルモノデアラネベナリマセヌ、故ニ列強ハ競ウテ之ニ全力ヲ注ギツ、アルノデアリマス、東洋十億ノ民衆ノ啓蒙ニ指導ノ使命ヲ有スル我ガ帝國ガ、其ノ航空交通ノ現狀ハ如何デゴザイマスカ、列強ノソレニ比シ、實ニ貧弱極ル狀態ニシテ再ビ數世紀前ノ歴史ヲ繰返サザレバ幸ヒデアリマス、殊ニ國防ノ第一線タル空軍ノ現狀ハ、誠ニ慄然タルモノデアリマシテ、國民ノ期待ニ反スルモノ甚デアリマス、歴代ノ内閣ニ對シ、私ハ屢、空軍省若シクハ航空省ヲ設ケ、航空統一ヲ圖ラザルベカラザル點ニ付キ質問シ、警告モ發シマシタケレドモ、陸、海、遞ノ三省ガ各、其ノ信ズル所ニ向ツテ、所謂跛行ノ寸進ヲ得タルニ過ギズ、誠ニ寒心ニ堪ヘザル次第デゴザイマス、一朝國家有事ノ場合、其ノ第一線ニ大敗シテ國防ノ完全ヲ得ラル、デゴザイマセウカ、天祐ヲ頼ミトシ、大和魂ヲ誇トシ、半世紀前ニ研究サレタ空襲ニ對スル防備ヲ以テ完全ナリト思惟セラル、ガ如キコトガアリマシタナラバ、恰モ「エテオビヤ」ノ軍事當局ガ、強烈ナル伊國ノ空

襲ヲ十二分ニ知リナガラ、雨期ト「エチオ
ピア」魂ヲ唯一ノ頼ミトシテ、漫然空軍ノ
設備ヲ怠リシニ彷彿タル所ガアリハ致シマ
セヌカ、敵ノ空襲ニ對シテハ、之ニ適當ス
ル空軍ヲ常備スルニ非ザレバ、如何ニ巧妙
ナル武器ト雖モ、又如何ニ熱烈ナル忠君愛
國ニ燃エル國民ヲ有スルト雖モ、風前ノ燈
火ノ如ク全滅スルハ勿論デアリマス、「イタ
リ」ガ強國、英、佛ヲ後目ニカケ、而モ
地中海ヲ壓スル大英帝國ノ全艦隊ヲ物トモ
セズ、敢テ強行其ノ素志ヲ貫徹シ得タルモ
ノ、實ニ彼ノ大空軍ノ威力ニ外ナラザルコ
トハ申ス迄モゴザイマセヌ、伊「エ」戰ハ天
ガ犧牲ヲ示シ、以テ皇國日本ヲ如實ニ戒飭
セルモノニ外ナラナイモノデアルト信ジマ
ス、速カニ天ノ戒ヲ守リ、空軍ノ充實ヲ圖
リ、以テ敵慮ヲ安ンジ奉リ、下國民ノ不安
ヲ去ラシムベキデアリマシテ、急ナラザル
設備ハ暫時之ヲ後年ニ待チ、速カニ空軍ノ
大充實ヲ圖ルノ要ハゴザイマセヌカ、之ヲ
以テ尙足ラザル場合、國民ハ衣ヲ節シ、食
ヲ斷ズルモ、國防第一線ヲ保護スルノ大覺
悟ヲ有スルヤ勿論デアリマス、一昨日、海
軍大臣ハ、衆議院豫算分科會ニ於テ、「海軍
トシテハ空軍獨立ハ反對ナリ」ト云フ御聲
明ガアリマシタガ、陸軍ニ三百萬人ノ豫後
備役軍人アリ、海軍ニ軍艦ノ豫後備ヲ以テ
任ズル商艦アルニ拘ラズ、空軍ニノミ之ナ
キハ、眞ノ國防ヲ全ウスルモノト認ムルヲ
得マセヌガ、此ノ際航空省ヲ新設シ、平時
航空交通ノ任ニ當ラシメ、戰時陸海軍所
屬空軍ノ豫備役ヲラシムル御意思ハゴザイ

マセヌカ、總理大臣竝ニ海陸兩大臣ノ御答辯
ヲ願ヒマス、更ニ遞信大臣ハ空軍ノ豫後備
役ヲ以テ任ズル航空交通ヲ、如何ナル御方
針ノ下ニ發展完備セシムトセラル、御意
見デゴザイマスカ、誠意アル御答辯ヲ願ヒ
マス、帝國國民ハ其ノ技巧ニ於テ世界人類
中獨特ノ天分ヲ有シテ居リマス、故ニ指導
其ノ宜シキヲ得レバ、各般ノ技術方面ニ於
テ翹ヲ世界ニ唱フル又易々タルモノデアリ
マス、殊ニ航空機ノ製作及操縦ハ其ノ最モ
適セルモノデアリマシテ、政府ハ之ガ製作
技術ニ對スル研究ヲ、單ニ大學、遞信省、
陸軍、海軍等ノ個別的機關ニノミ委ス
ルコトナク、是等ノ研究機關ヲ打ッテ一丸ト
シ、更ニ廣ク人材ヲ拔擢シテ之ニ加ヘ、日
本航空研究所ト稱スルガ如キモノヲ設置ス
ル御計畫ハアリマセヌカ、斯ウシタ研究所
ニ於テコソ、初メテ而モ最モ夙ク無滑走、
無爆音ノ優秀ナル航空機ヲ眞先ニ世界ニ紹
介スルモノナルコトヲ私ハ確信シテ疑ハナ
イノデアリマス、更ニ又航空機ノ操縦モ之
ヲ少年航空兵ニノミ求メズ、現役軍人全部
ヲシテ航空技術ヲ修得セシメ、一面退役後、
航空機操縦者タル職ヲ與ヘ、他面有事ノ際、
操縦者不足ノ歎ナカラシムル御用意ハゴザ
イマセヌカ、幸ヒ現内閣ハ舉國一致ノ基礎
ニ立チ、而モ庶政更新セラル、トノ御聲明
デアリマスカラ、國防ノ第一線強化ノ爲
メ、航空省ノ設立、航空機製作竝ニ技術ニ
關スル綜合的研究機關ノ設置、陸海軍人ニ
對スル操縦技術ノ普及、航空路ノ開拓ニ付
テ特別ノ御留意ヲ賜リ、其ノ實現ノ一日モ

速カナラムコトヲ望ンデ已ミマセヌ、以上
質問ニ加ヘテ希望ノ一端ヲ開陳シタ次第デ
ゴザイマス
〔國務大臣永野修身君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(永野修身君) 水野君ノ御質疑
ニ答ヘマスル此ノ時機ヲ拜借イタシマシテ、
昨年末竝ニ本年初頭ニ於キマシテ、「ロンド
ン」ニ行ハレマシタル軍縮會議ニ參與セル全
權團ニ對シ、本貴族院ノ特ニ御懇篤ナル御
言葉ヲ賜リマシタルコトニ對シ、茲ニ感謝
ノ意ヲ表シマス、水野君ノ第一ノ御質問デ
ゴザリマスルガ、陸海ノ空軍ヲ統一シタ空軍
ヲ作ラナイカト云フコトデゴザリマス、陸
海ノ空軍ヲ統一シテ一ツノ空軍ト致シテ居
リマスルノハ、「ヨーロッパ」英、佛、伊等
デゴザリマス、又之ニ反シテ之ヲ二ツニ分
ケマシテ、矢張り陸軍ハ陸軍ノ空軍、海軍
ハ海軍ノ空軍ヲ持ッテ居ルモノハ、「アメリ
カ」デアリマス、「ヨーロッパ」ガ陸海ノ空軍
ヲ一緒ニシテ居マスルノハ、主トシテ其ノ
地理的關係ヨリ來テ居ルコトト思ヒマス、
又米國ガ國ノ依存ヲ主ニ海上ニ……、國ノ
安全ヲ海上ニ依存シマシテ、海軍ノ戰闘ニ
非常ニ重キヲ置イテ居ル點カラ見マシテ、
是ハ二ツニ分ケテ居ルコトト思ヒマス、私
共觸接セル範圍内ニ於キマシテ、特ニ英國
海軍士官内ニ於キマシテハ、海軍ノ戰闘ヲ
最モ有利ナラシメルノニハ、矢張り海軍ハ
海軍ノ直屬ノ航空隊ガ要ルト、斯ウ云フ意
見ヲ度々聞イテ居リマス、日本ノ方ニ於キ
マシテハ、海軍航空隊ノ本質、特ニ其ノ實
際ノ用兵ノ見地カラ致シマシテ、空軍ノ獨

立ハ贊成シ難イ次第デゴザリマス、民間航
空ノ充實竝ニ其ノ發達ヲ促進スルノ要アル
コトハ、全ク御同感デゴザリマス、特ニ研
究機關ノ連絡統制、規格ノ統一、工場統制
等ハ非常ニ急務ト存ジテ居リマス、併シ之
ガ行政機關トシテ航空省ヲ適當トスルヤ或
ハ否ヤニ付キマシテハ、慎重ナル檢討ヲ要
スル次第デゴザリマス、目下關係當局トモ
連絡致シマシテ、銳意研究中デゴザリマス、
現役軍人ノ全部ニ操縦ノ術ヲ教ヘヨト云フ
御説ニ對シマシテハ、斯クスレバ一體幾許
ノ飛行場ガ要ルカ、又何萬ノ練習機ガ要ス
ルカ、又現役期間ハ一體何年位迄ニ延長シ
ナケレバナラナイカト云フヤウナ、ムツカ
シイ問題モアリマス、研究ニ多大ノ費用努
力ヲ拂ヒマシテモ、其ノ結果ハ廣クシテ薄
イト云フコトニナリマシテ、特ニ巧妙ナル
飛行、高等飛行ナンカラ要スルヤウナ、特
殊ノ有能ナル航空兵ヲ養成スルノニハ非常
ニ不便ナルカト存ジマス
〔國務大臣伯爵寺內壽一君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(伯爵寺內壽一君) 航空ニ關シ
マスル誠ニ謹聽スベキ御意見ヲ拜聽致シマ
シテ感謝致シマス、只今海軍大臣ガ述ベラ
レマシタコトハ重複ヲ省キマシテ、私ハ茲
ニ民間航空ニ關スル陸軍ノ見解ヲ、所見ヲ
申述ベタイト思ヒマス、民間航空ハ軍航空
部隊ノ第二線ト致シマシテ、軍ハ之ニ期待
スル所ガ頗ル大デゴザイマス、之ガ助長促
進ニ關シマシテハ、最善ノ努力ヲ咨マザル
所デゴザイマシテ、現ニ操縦士ノ教育、飛
行場ノ貸與、其ノ他各種能フ限りノ援助ヲ

提供致シマシテ、其ノ發達ヲ希ツテ居ル所
デゴザイマス、然ルニ帝國民間航空ノ現狀
ニ於キマシテハ、航空工業ハ未ダ其ノ基礎
十分デゴザイマセス、輸送事業モ亦極メテ
貧弱デゴザイマシテ、遺憾ナガラ軍ノ期待
ニ副ハザルコト頗ル遠イノデアリマス、其
ノ由ツテ來ル原因ハ種々ゴザイマセウト思ヒ
マスルガ、要スルニ航空ニ關スル朝野ノ理
解ガ未ダ十分デナク、爲ニ其ノ促進ニ對スル
所ノ國民的努力ノ足ラザル所ガアルノミナ
ラズ、特ニ斯業ノ統制促進ニ關スル制度機
構ニ尙大ナル缺陷ノ存スル如ク考ヘラレマ
スルノデ、是等ノ點ニ徹底ノ革新ヲ加フル
コトハ當面ノ急務デアルト信ジマシテ、航
空行政ノ一元ノ統轄機關等ニ關シマシテ、
慎重ニ審議研究致シテ居ル次第デゴザイマ
ス

(國務大臣賴母木桂吉君演壇ニ登ル)

○國務大臣(賴母木桂吉君) 御答ヲ申上ゲ
マス、航空路ノ開始ヲ致シマシタノハ、丁度
今カラ十一二年前デアリマシテ、私ガ此處
デ、此ノ壇上ニ於テ御説明申上ゲマシタ其ノ
折カラ、初メテ其ノ豫算ニ依ツテ航空路ガ
開始サレ、民間飛行會社ガ出來マシテ今日
ニ至リマシタノデアリマスガ、其ノ十年間
ノ發達ノ跡ヲ見マスレバ實ニ遅々トシテ、
只今御述ニナリマシタ通りデ誠ニ遺憾千萬
デアリマス、英國、「フランス」、「ドイツ」、
「イタリー」等ニハ航空省ガアルヤウデアリ
マスガ、此ノ「ドイツ」ヲ除キマシタ後ノ諸國
ハ、皆空軍省デアリマシテ、民間飛行ヲ基
本トシタ航空省ト云フモノノ形ハ「ドイツ」

ノミデアリマス、ソレハ「ドイツ」ハ敗戦ノ
結果、空軍ヲ有スルコトガ出來ナイ關係上、
條約上出來マセヌ關係上、航空省ト云フ形
デ、所謂民間飛行ヲ根本ニヤツテ居ルヤウ
デアリマスガ、事實ハ矢張り空軍省デアリ
マス、デ日本ノ民間飛行ヲ發達サセル爲ニ
航空省デモ設ケテヤツタラドウカト云フ議
論モナカノアルヤウデアリマスガ、此ノ
貧弱ナル現在ノ民間航空事業ヲ統一シテ、
而シテ航空省ヲ設ケル程ノ價值ガアルカナ
イカト云フコトハ、是ハ今日トシテハ問題
ニナラナイト考ヘルノデアリマス、併シ遞
信省ト致シマシテハ貴族院ノ決議ヲ尊重致
シマシテ、航空事業ノ振興ニ關スル貴族
院ノ決議ヲ尊重致シマシテ、政府ハ第一次
振興計畫ヲ定メマシタ、其ノ大體ノ所要額
ヲ申上ゲマスト、十一年度計畫ノ分ガ一千
九百十七萬二千圓デアリマシテ、是ハ臨時
費デアリマス、經常費ト致シマシテハ四十
二萬三千圓デアリマス、是ニハ臺灣ノ特別
會計カラ支出致シマスルモノヲ合シタ合計
デアリマス、斯クノ如キ貧弱ナモノデアリ
スレバ、臺北ヲ基點ト致シマシテ臺灣航路
ノ今ヤツテ居リマス福岡ヨリ臺北ニ至ル線
ヲ延バシマシテ、臺北ヲ發シテ香港ニ參リ
マシテ、「ハノイ」ニ寄リマシテ、「バンコッ
ク」ニ著キマス線ガ初メテ開始サル、コト
トナルノデアリマス、日本ノ國際航路ノ第
一步ヲ初メテ踏出スト云フヤウナ狀態デア
リマシテ、私共ト致シマシテハ、少クモ東
洋ノ航空ノ實權ハ我が國ノ手ニ握リタイ、

斯ウ云フ希望ヲ持ツテ居リマス、併シナガラ
此ノ實現ニ達スルニハ、ドウ致シマシテモ今
日マデ非常ナル御援助ヲ受ケテ居リマス陸
海軍ト十分協調致シマシテ、此ノ目的ヲ達
シタイト考ヘテ居リマス、左様御承知願ヒ
マス

(國務大臣賴母木桂吉君演壇ニ登ル)

○國務大臣(賴母木桂吉君) 成ルベク短イ
期間ニ於テ目的ヲ達シタイト考ヘテ居リマ
ス、ソレニ付テハ色々工作ヲ要スル問題デ
アリマシテ、御存ジノ通りニ他國ノ空ヲ飛
ブノデアリマスカラ、國際關係其ノ他モア
リマス、色々ナ方面ノ支障ヲ取除キマシテ、
尙豫算ノ許シマス限リ早く其ノ完成ヲ致シ
タイト希望ヲ致シテ居リマス

○議長(公辭近衛文麿君) 本日ハ此ノ程度
ニ於テ延會ヲ致シタイト存ジマス、御異議
ハゴザイマセヌカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(公辭近衛文麿君) 御異議ナシト認
メマス、次會ノ日程ハ、決定次第彙報ヲ以
テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致
シマス
午後零時十八分散會

頁	段	行	誤	正
三九	三	二五	專案	事業
四一	二	九	救助臺	救助車
五八	三	二四	塚本蒸治	塚本清治